甲第52号証

昭和十四年三月

戰歿勇士に賜りたる

皇后宮御歌謹解

厚生省

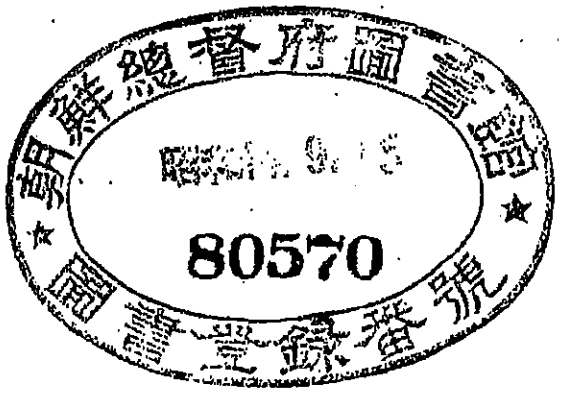
9.26

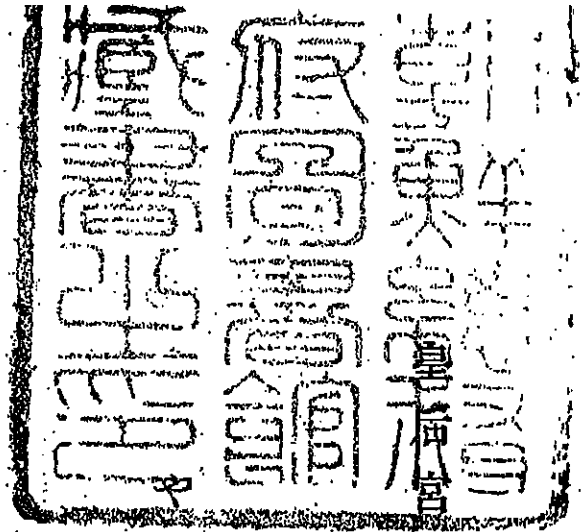
朝鮮總督府圖書館藏書

皇后宮御歌

やすらかにねむれ
とそおもふ
君のため
いのちさゝけし
ますらをのとも

厚生省軍事保護院


朝鮮總督府圖書
昭和
80570
圖書登錄番號



御歌を拜して

宮内省

すらかにねむれとそおもふ君のため
いのちさゝけしますらをのとも

此の御歌は畏くも昭和十二年十二月三十日に戰歿の勇士を御弔慰あらせらるゝ思召を以て下賜あらせられたのでありまして、一首の御意義は「大君のために命を捧げた勇

士たちよどうか安心して瞑目せよ」と仰せられたのでありまして、君のために命をすてたつはものの中には勇戰力闘遂に彈丸盡きて殪れた者もありませう。又不幸にして戰場に病を獲て倒れた者もありませう。然し御國の爲に盡した點に於ては皆同一であつて畏きことながら茲に「いのちさゝげし」と仰せられたのはこれらの人たちを總稱しての御事と拜し奉るのであります。

生きて再び還らざる是等勇士たちの上に深く御同情遊

ばされて、後の事は次して心配するな、外には汝たちの遺志をついで必ず東洋永遠の平和を固むるの將兵たちがあり、内には銃後の護りを完璧ならしむる忠良な國民があるとの御餘意を十分にこめて「やすらかにねむれとぞおもふ」と御せられたことは畏しとも畏き極みであります。

此の「ねむれとぞおもふ」の御一語こそは恐れ多くも陛下の切なる御念願にあらせられ、其の御念願の上に「やすらかに」の御一句を措き給ふ御優しき御慈悲を拜して誰か

感泣せざるものがありませうか。

此の有難き御歌に依つて陣歿した勇士も病歿した將兵も皇天加護の下に此の皇土に永く安き眠りに入ることが出來ることでありませう。

寄No. 86056

昭和拾四年十二月廿壹日 修理

推算 0.070

受入 検査 司書 第一係